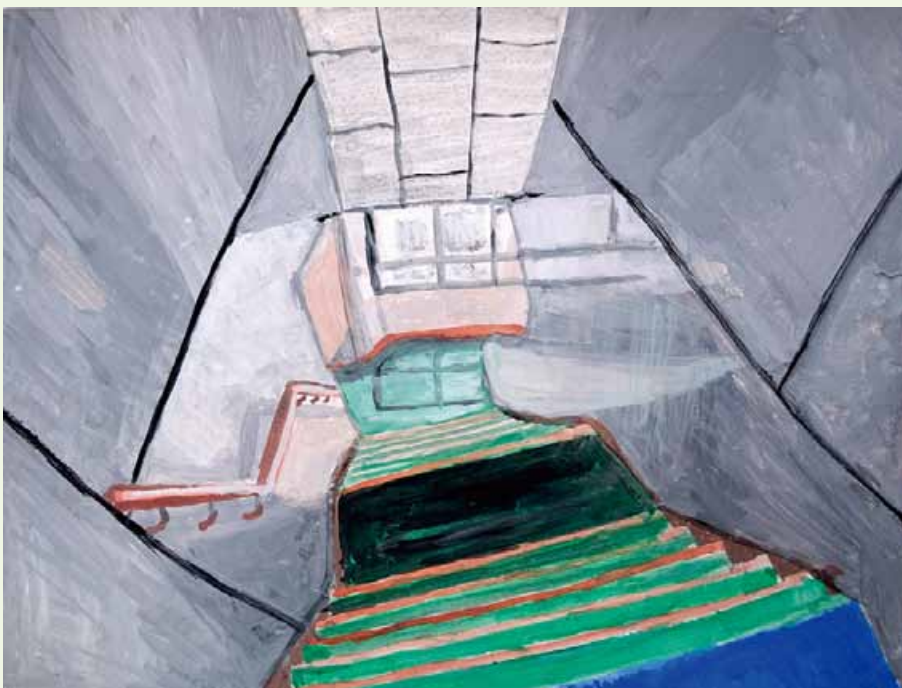


- 学力向上総合対策事業（授業力養成事業）
- 実践的防災教育推進事業
- 「ふるさと山梨」郷土学習推進事業について
- 学力向上キャラバン 始めました！
- キャリア形成支援事業／県立身延高等学校
- 自ら学ぶ図書館活用事業／県立葎崎高等学校
- 身近な地域スポーツ促進事業
- 博学連携の推進／県立美術館
- ICTを効果的に活用した主体的学習について
- 学校紹介／笛吹市立浅川中学校・県立やまびこ支援学校
- 県立美術館 開館40周年記念 愛されて40年『100万回生きたねこ』佐野洋子の世界展
- 県立文学館特設展「生誕120年 井伏鱒二展」
- 県立博物館企画展「芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」
- 県立考古博物館 開館35周年記念特別展「古代アンデス文明展」
- 山梨近代人物館紹介／「山梨に「明治」を連れてきた藤村紫朗」
- 山梨の文化財／甲府城愛宕山石切場跡
- 「かいじあむのこどもまつり」のお知らせ
- ホームページ紹介／甲府市立中道北小学校・南部町立南部中学校
- 「第4回贈りたい本大賞」が決まりました

Click!

※指定ページにジャンプします



作品タイトル 「さびしそうな階段」

北杜市立高根中学校

第1学年 藤原 彰人

山梨県教育委員会

# 授業力養成事業

～ 教員の授業力の向上を目指して～

義務教育課

## 1 事業概要

授業力養成事業は、「学力向上総合対策事業」の中の、教員の資質向上のための事業の一つです。平成29年度から31年度の3年間で小・中学校の各教科等の講座を実施し、具体的な授業を通して、文部科学省調査官や実践研究者（大学教授等）から優れた授業実践について学び、教員の実践的な授業力の向上を図ります。

新学習指導要領では、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、不断の授業改善や教師の指導力の向上が求められています。講座の中で具体的な指導法などを学び、児童生徒の学力向上につなげていきます。

## 2 平成29年度の実施状況

本年度は、算数・数学（算数2講座）、家庭・家庭分野（2講座）、小学校国語、図画工作、美術、の7教科、7講座を開催しました。全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた講座、教科の課題を解決できるような講座、県教育課程研究委員会の成果を反映した講座、「やまなしスタンダード」を具現化した講座などそれぞれの教科の実情や新学習指導要領を意識した講座内容となりました。また、本年度はどの教科も小・中学校両方の先生方が参加できるようにし、小・中学校の交流を図ることもできました。



6月\*文学館、算数・数学



7月\*塩山中、家庭・家庭分野



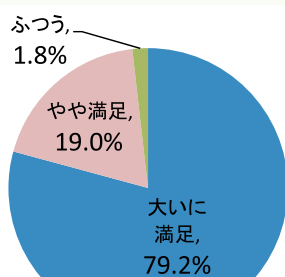
10月\*新紺屋小、図画工作



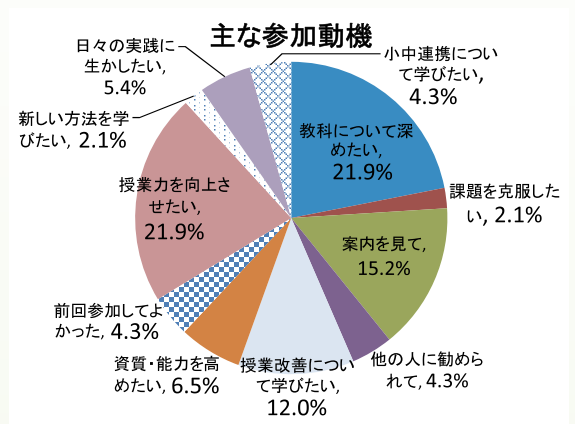
11月\*葦崎北東小、算数

## 3 今後に向けて

参加者は、「教科について深めたい」「授業力を向上させたい」など目的を持って参加していました。「課題の与え方、見付け方、また、新学習指導要領を見通した実践について学ぶことができた」「講師の先生の講義が大変勉強になった」「新学習指導要領や新しい学力観について参考になった」など、講座後のアンケートによると、「大いに満足」と「やや満足」を合わせた肯定的な回答は98.2%となっています。



講座内容について



実施後、講座内容は指導主事の学校訪問や研修等にも生かしています。この他、講座内容をどのように授業改善に活用しているかの活用アンケートの結果も分析し、来年度の講座へ生かしていきます。

来年度も多くの先生方に参加していただき、実践的な授業力の向上につなげていきたいと思っております。

# 実践的防災教育推進事業

～ 自らの命を守り抜く主体的に行動する態度の育成を目指して～

義務教育課

## 1 趣 旨

山梨県教育委員会では、平成24年度から国の委託を受け、「実践的防災教育推進事業」に取り組んでいます。本事業は、平成23年3月に発生した東日本大震災の教訓を踏まえ、学校における実践的な防災教育の充実を図るとともに、児童生徒が自然災害等の危険に際して自らの命を守り抜くため「主体的に行動する態度」の育成、支援者となる視点から、児童生徒が安全で安心な社会づくりに貢献する意識の向上、緊急地震速報受信システムなどを活用した防災教育の推進を図っています。

## 2 事業内容（キーワード『地域との連携』～実践委員会の立ち上げから～）

今年度は、実施校として3地域内の小・中学校各1校及び県立学校3校の計9校が、実践的な防災教育・防災管理に取り組んでいます。

特に今年度は、モデル地域の中核となる教職員が中心となり、防災に関する有識者（大学教授等）を学校安全アドバイザーとして、各地域で「実践委員会」を設置し、地域全体の連携体制の構築と安全教育の推進に取り組んでいます。構成委員としては、学校担当者ばかりでなく、各地域の教育委員会担当者や防災部局担当者、実施校のPTAや自治会の関係者、各関係機関の関係者など、地域の実態に応じ、様々な方々と連携しています。

### <H29本事業実施モデル地域と実施校>

#### ○小・中学校

教育事務所	モデル地域	小学校	中学校
中北	中央市	三村小学校	玉穂中学校
峡東	甲州市	大和小学校	大和中学校
富士・東部	大月市	大月東小学校	大月東中学校

#### ○県立学校

北杜高等学校	都留高等学校	盲学校
--------	--------	-----

## 3 「実践的防災教育推進事業成果発表会」の開催

平成30年1月16日（火）甲州市民文化会館において、「実践的防災教育推進事業成果発表会」を開催しました。

モデル地域である中央市、甲州市、大月市ではそれぞれの小・中学校が合同で、県立学校からは北杜高校が、防災意識向上のための取組、実践委員会の機能の在り方など含め、モデル地域での成果や課題を、ポスターセッションにより発表しました。参観者からは「今までの防災訓練を補うように学校・家庭・地域が積極的に考え実践的になっていく過程が分かった」「実践校の事例から本校でも取り入れたいと思う活動に出会うことができた」などの声があり、今後の防災教育推進につながる有意義な会となりました。



# 「ふるさと山梨」郷土学習推進事業について

～ 主体的な学びの充実・グローバル人材の育成・地域創生のために～

義務教育課

「新やまなしの教育振興プラン」には、「伝統・文化に関する教育の推進」が掲げられています。県教育委員会では、21世紀を担う山梨県の全ての児童生徒が、郷土への関心を深め、郷土を愛し、郷土に誇りを持てるような心情をより豊かに育むため、郷土学習教材『ふるさと山梨』を活用した郷土学習を推進しています。

## 1 郷土学習教材『ふるさと山梨』が新しくなりました



山岳写真家・白簞史朗氏の写真が表紙を飾っています

「ふるさと山梨」は、「資料集」ではなく、教材をきっかけに学びを始めたり広げたりできる、いわば主体的な学びや問題解決的な学びのための教材という性格があります。

各ページでは、キャラクターが児童生徒の興味・関心、疑問を喚起するような問いを発しています。また、各章末では、学んだことを基に話し合ったり、これからの郷土について考えたりする活動を促しています。

県教育委員会では、平成20年に刊行した郷土学習教材『ふるさと山梨』を全面改訂し、新しい『ふるさと山梨～郷土を愛し、未来を拓く～』を平成29年3月に県内の小・中学校などに配付しました。

新しい教材は、県内全ての市町村を紹介するページや、英語で山梨を知ったり紹介したりするページが新たに設けられるなど、充実した内容となっています。



好きな山梨の食べ物を英語で伝えよう！（小学校版）

## 2 「ふるさと山梨」郷土学習コンクール／郷土学習実践研究発表大会

10回目の節目となる、「ふるさと山梨」郷土学習コンクール、「ふるさと山梨」郷土学習実践研究発表大会を実施しました。県内の多くの小中学生が、『ふるさと山梨』をきっかけに、様々な視点から山梨に関することについて調べ、その成果を研究作品としてまとめました。

### ■ 「ふるさと山梨」郷土学習実践研究発表大会 第10回記念大会

平成29年10月31日、「ふるさと山梨」郷土学習実践研究発表大会の第10回記念大会を開催しました。コンクール受賞者の表彰や大賞作品の発表の他、今回は第10回を記念して、過去の郷土学習コンクール受賞者2組の方々をゲストに招いて、郷土学習が自分自身の生き方に与えた影響などについてお話しいただきました。

「郷土学習を通して身近な地域への愛着がより湧いた」「郷土学習を通してお世話になった方とのつながりを今も大切にしている」といったお話に、参加者からは「郷土学習の大切さを改めて実感できた」「“つながり”という点からも有意義なお話だった」といった感想が寄せられるなど、有意義なプログラムとなりました。

県教育委員会では、郷土学習を通して学んだ児童生徒が、ふるさとに対する誇りや愛情を持つとともに、広い視野から世の中を捉え、これからのよりよい社会をつくる原動力となってくれることを期待しつつ、今後も郷土学習を推進していきたいと思えます。



コンクールの大賞・優秀賞受賞作品や各種資料をご覧ください、ぜひ活用してください！！

山梨県総合教育センターHP → 義務教育課 → ふるさと山梨

# 学力向上キャラバン 始めました！

～ 各学校の学力向上の取組を支援する指導主事派遣 ～

義務教育課

## 1 学力向上キャラバンとは

義務教育課では、児童生徒や保護者の学習に対する悩みの改善や、学びに向かう力を育成することを目指し、指導主事等が県内公立小・中学校を訪問する「学力向上キャラバン」を実施しています。

この取組の一番の特徴は、各小・中学校が主体的に行っている「学力向上の取組」への支援を目的としている、という点です。一口に「学力向上の取組」といっても、学習への取り組み方などを発表する集会もあれば、保護者を交えた学習会もあります。いずれも学力向上に関わり、児童生徒に直接関わる内容であることが条件になっています。

## 2 充実した学びが見られました

平成29年度は、年度途中からの開始でしたので、10校（小5校、中5校）での実施となりました。12月までに実施した学校での取組内容の一部を紹介します。

### ●万沢小学校

「ミステリースカイクを楽しもう！」とし、ネット上でスリランカの子供たちと生で質問し合っ



て互いの国を当てるというゲームを行い、英語で伝え合う楽しさを味わわせることができました。

### ●旭小学校

指導主事による算数科の示範授業を実施。主体的・対話的で考えさせる授業、児童の考えが深まっていく授業の在り方を学んでいただきました。



### ●身延中学校

家庭学習、自主学習についての集会に参加。勉強に対する生徒の質問に直接答えました。学校



全体の取組が充実しており、真剣な中学生の姿は素晴らしいものでした。

### ●上野原中学校

教科ごとに、勉強の悩みや学習法について指導主事が相談に乗りました。

### ●都留第二中学校

土曜参観日で、保護者も交え、SNSの危険性などの学習やワークショップ型の研修会を実施しました。

### ●富士小学校

児童と保護者を対象に、家庭学習の充実に向けた学習会を実施しました。

### ●竜王西小学校

6年生を対象に、キャリア教育に関する講演会を実施しました。

### ●泉小学校

6年生を対象に勉強の仕方や中学校進学に向け算数の勉強法等を話しました。

### ●塩山北中学校

「家庭学習スタンバイ」について、中学生、学区の6年生、保護者、職員が取組成果と課題について意見交換を行いました。

### ●勝沼中学校

授業参観に合わせ、親子で聞く講演会「家庭学習についての学習会」を開催しました。

## 3 これからの予定

この取組は、参加者の満足度99%と非常に好評を得ており、次年度も継続して実施する予定です。年度当初から希望を集め、30校程度で実施したいと考えています。広報活動にも力を入れ、保護者を含め、より多くの方々に参加していただけるよう工夫していきたいと考えています。

## キャリア形成支援事業

～小中高で一貫したキャリア教育の実施に向けて～

県立身延高等学校

### 1 はじめに

少子高齢化の進む身延・南部地域では、高校生の周囲に目標とする大学生や年齢の近い社会人が少なく、会社の数や業種もあまり多くありません。そのため、他の誰かと自分を重ねることで自己の将来を想像したり、多くの職業を見たり聞いたりすることで自己の適性を理解したりすることが難しい環境にあります。また、生徒数が少ないので家内的な雰囲気での活動が多くなり、高校生がリーダーシップを発揮して集団を方向付けるような活動をしづらい状況もあります。そのため、異なる校種間での活動（異年齢交流）は、自己の理解力、自他の理解力、コミュニケーション力、課題対応力を身につける上でとても重要と考えています。

数年前から、小中高一斉ボランティア活動という授業を実施しています。小学生と高校生、中学生と高校生がともに植花活動や清掃活動をする授業です。何年も続けている授業ですが、明確な成果が見えにくいので、評価も二分されていました。一方で、本校は中高連携事業を4年前から実施しています。そこで、昨年度から、この授業をキャリア教育の視点で取り組みはじめました。

### 2 取り組みの概要

4年前から取り組んでいる中高連携事業は、キャリア教育の視点で取り組んでいます。“小中高一斉ボランティア活動”が、中学生と高校生にどのようなキャリアをどの程度積み上げさせているか、キャリア教育の視点から評価しました。

まず、授業を次の目的と手順で取り組みました。特に手順①と②に注意を払いました。実施する上で（※）ファシリテーターとなる教師には、キャリア教育について十分な理解が必要と考えたからでした。

（※ファシリテーター：集団活動がスムーズに進むように、また成果が上がるように支援する人）

〔目的〕 キャリア教育の視点で実施する

身につけさせたい能力：

「人間関係形成・社会形成能力（コミュニケーション能力・自他の理解能力）」

身につけさせたい具体的な能力（評価の視点）：

- ・他者の考えや立場・状況を理解し、相手の意見を踏まえつつ、自己の考えを述べることができる
- ・他者の価値観や個性を理解し、尊重することができるとともに、協力して物事を成し遂げることができる
- ・リーダー・フォロワーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高めることができる
- ・異年齢の人や異性など、多様な他者と場に応じた適切なコミュニケーションができる

〔手順〕 ①授業目的を転換する。

（ボランティア活動からキャリア教育に転換。）

②生徒に目的をはっきり示し、徹底させる。

（生徒向け要項の作成と説明会の開催。また、アンケートの工夫。）

③アンケートを実施して、教師と生徒の変容を調査し、改善を図る。

### 3 取り組みの成果について

#### 小学生との植花活動について

##### ● 高校生の意見

- ・ 集団をよく見て、先を見通して、判断して、指示を出すことができるようになった。
- ・ 以前より相手の気持ちを考えて話すようになった。
- ・ 集団をまとめる大切さがわかった。
- ・ この活動で、自分のコミュニケーション力は高いと思った。この力をこれからの様々な活動で役立てたい。

##### ● 教師の意見

- ・ 小学生にどのように伝えるかを工夫させた。高校生は、それを意識して取り組むという、良い機会でした。
- ・ 小学校の先生も積極的に発言し、小学生も高校生も充実した活動でした。準備は大変ですが、やってみるとやりがいのある活動だと思いました。

#### 中学生との清掃活動について

##### ● 高校生の意見

- ・ 周りを見て、言われる前に行動できた。
- ・ 今回初めてリーダーをしたが、リーダーの行動力が大切だと分かった。
- ・ 人見知りの性格だが、意外に緊張せず、話が出来た。
- ・ コミュニケーションしないと、相手との距離を縮められないことがわかった。
- ・ 話せば伝わることを再認識した。小さな発見の積み重ねが自己の価値観を変えるきっかけとなるので、これからは気の向かないことも積極的に取り組んでみようと思った。

##### ● 教師の意見

- ・ リーダーシップがとれる生徒ととれない生徒で差があるが、責任感を持って行動する生徒が出てきた。
- ・ 自身のコミュニケーションの拙さを自覚しながらも、周囲を観察しながら積極的に取り組んでいた。
- ・ 生徒それぞれが、この機会を有意義なものにするために、リード&フォローしていた。

アンケートの結果を見ると、生徒だけでなく教師にも大きな変容が観られました。生徒は、コミュニケーションの重要性を意識した積極的な活動に心がけて取り組んでいました。また、教師は、ファシリテーターとして授業に積極的に関わるようになり、評価の視点を意識して生徒の変容にも注視していました。生徒と教師が共通した目的に向かって取り組んでいることがわかりました。

目的（評価の視点）をわかりやすく明確にして、生徒と教師に周知させること。振り返ること。考えてみれば、“基本に忠実であれ！”とすることでしょう。それぞれの校種で明確な目標を持ち、小学校、中学校、高等学校が連携し、一貫したキャリア教育で取り組むことで、生徒は大きく変わっていくのではないのでしょうか。

異校種の連携活動は、キャリア形成に適した好環境を自然に作り出します。従来からある連携授業をキャリア教育という視点に変えて実施したことで、想像した以上の成果を生徒と教師にもたらしました。



作業を説明する高校生



「ここはこうした方がいいよ」



作業前のアイスブレイク



「進路どうするの？」

# 『人間を育てる』～「自ら学ぶ『探究的な学習』に取り組む」

県立荊崎高等学校

## 1 授業での活用例

荊崎高校では「人間を育てる」という教育方針のもと、SSH課題研究や全校体制の「探究的学び」を目指しています。その中で図書館は、思索の源である本に囲まれているだけでなく、生徒達が意見交換し自らの思考を深め探究的学習を展開するのに最適な環境として、国語、数学、英語、保健体育、家庭科など多様な教科で活用されています。その一部をご紹介します。

### (1) 国語科：「ビブリアバトル」



3年生国語授業での実践です。グループ予選を勝ち抜いた代表がおすすめ図書の魅力を簡潔に心を込めてプレゼンし聴衆の質問を受けます。

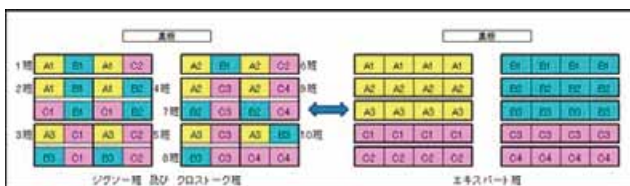
発表者は読解力・要約力・論理的表現力、聴衆は多様な資料の分析力が求められ、楽しくもハイレベルな授業です。

### (2) 家庭科（保育）：「読み聞かせ」

聞き手（子ども）を感動させるため幼児・児童心理の特徴を理解しつつ、深く丁寧な解釈と確かな表現力を鍛えます。図書館では本を自由に選ぶことができ、読み聞かせの雰囲気も高まります。



### (3) 数学科：「ジグソー法」



図書館の机配置はジグソー法に最適です。生徒同士が教え合うことで自分の理解を整理し深められ、知識の定着も図ることができます。主体的に学ぶ態度に繋げることができます。

(『荊高NAL通信』より)

## 2 読書活動推進のために

荊崎高校では全校で朝の10分間読書を実施しています。荊崎高校らしい図書館資料としては、大村智博士や宮沢賢治に関する図書、サッカー、SSH、海外研修と国際交流などに関連した図書の充実にも努めています。『としょかん通信』『朝の読書通信』も発行し、生徒が図書館に足を運ぶよう工夫をしています。



図書委員が作成したPOP

図書委員会の取組では図書委員のおすすめ本を紹介する「POP」を本と一緒に展示しています。読書週間や長期休業前には「おすすめ本紹介」の配布と本の展示も行っています。図書委員が紹介した本は手に取る生徒が多いので、今後も続けていきたい企画です。

「読書週間イベント」も人気の取組です。図書委員考案の「図書館クイズ」や「図書館くじ」の実施、図書委員が選んだ「本の福袋」の貸出、読書週間ポスターの募集などを行います。普段あまり図書館に来ない生徒、本を借りない生徒も図書館や読書に親しむ良い機会となります。今年度はこの期間に図書委員による「ブックトーク」も行いました。生徒達は本の紹介者の話を真剣に聞き、良く反応していたのが印象的でした。参加者からは「本の楽しさや面白さが伝わってきた」「読んだことがないジャンルの本にも挑戦してみようと思った」などの感想があり、読書にさらに親しむきっかけとなったようです。



ブックトークの様子



図書館を舞台とした様々な取組を通して、生徒達にとって図書館や本が学校生活の大事な一部となることを願っています。



# 身近な地域スポーツ促進事業

## スポーツ健康課

### 1 はじめに

各地域において、スポーツを活用したコミュニティや健康で活力ある長寿社会の構築を図るため、平成26年度より身近な地域スポーツ促進事業を実施しています。本事業では、より多くの人々が、スポーツに参加できる機会を創出し、スポーツ未実施率の縮減につなげる取り組みを推進しています。

### 2 本年度の取り組み

#### ● 「地域スポーツ推進協議会」の開催

本事業では、県内スポーツ関係団体代表者や各市町村代表者を地域スポーツ委員に委嘱して、身近な地域スポーツ活動の活性化に取り組む協議会を年3回開催しています。

運動・スポーツをしたくてもできない人や興味のない人に、運動・スポーツの機会を提供できるよう、参加促進につながる効果的な次の4つのアプローチに重点をおき、各市町村で取り組みを実施しました。

- A より身近な地域に「出向く」
- B 運動未実施者に対する運動との「接点」を考える
- C 関係部署・団体との連携を考える
- D 広報等の周知方法を工夫する

「やまなしスポーツ推進プログラム」では平成30年度までに未実施率を20%未満とすることを目標としており、ここ3年間、これに近い値で推移しています。県政モニター調査スポーツ未実施率 H29：20.0% (H25：40.5% H26：22.4% H27：20.1% H28：19.7%)

#### ● 「未来へ繋げるスポーツの力」講演会開催

オリンピックと市民スポーツの関わりについての理解を深め、スポーツへの参加促進や指導者の指導意欲の向上につなげるため、オリンピック・パラリンピアンによる講演会を開催しています。

本年度は、10月22日（日）に、山梨市民会館にて、リオデジャネイロオリンピッ

ク陸上400mハードル日本代表の野澤啓佑氏と、トリノオリンピックスキーフリースタイルエアリアル日本代表の逸見佳代氏を講師に迎え、基調講演では、野澤氏に「リオ五輪から現在」、逸見氏に「オリンピックとその先に続く道」と題してご講演をいただきました。

さらに、講師のお二人と山梨県地域スポーツ推進協議会会長飯田忠子氏をパネリスト、山梨学院大学准教授



長倉富貴氏をコーディネーターに、パネルディスカッションを行いました。「未来へ繋げるスポーツの力」をテーマに、これからの山梨のスポーツ活動について、参加者とともに考える機会となりました。

#### ● 「スポーツ推進計画」の策定と「スポーツ推進会議等」の設置に向けて

スポーツ未実施率の縮減につなげる取り組みとして、各市町村に「スポーツ推進計画の策定」と「スポーツ推進会議等」の設置を推進しています。

各市町村でスポーツに関わる多様な主体が連携・協働し、計画的に地域のスポーツ振興を図ることを目的としています。

山梨県内27市町村（H29現在）

スポーツ推進計画策定 66.7%

スポーツ推進会議等 29.6%

#### ● 全国の先進事例に学ぶ

これらに加え、協議会の代表を広島県で行われた「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018」に派遣し、全国の動向や先進事例を第3回協議会をとおして各市町村に還元しました。

### 3 今後の取り組み

来年度以降も多様な主体が連携した取り組みを促進させ、各地域で住民が一層スポーツに親しめるようになり、コミュニティが活性化できるよう、本事業の充実を図って参ります。

## 美術館をもっと身近に

～教育普及の取り組み～

### 県立美術館

よく美術館を訪れる人でも、「教育普及」の存在を知っている人は少ないかもしれません。学校と美術館をつなぐ手助けをしたり、さまざまなイベントを企画し、美術館の持つ魅力を広める役割を担っているのが「教育普及」です。ここでは、美術館の教育普及の取り組みをいくつか紹介させていただきます。

#### ●スクールプログラム

現行の学習指導要領では、「博物館や美術館を利用した学習」がうたわれ、やまなし教育大綱においても「方針5」に芸術文化の向上、文化施設の利用が盛り込まれています。

このような背景もあり、県立美術館に授業で来館される学校への解説・体験活動である「スクールプログラム」は、近年大幅に増加しており、この数年は200校以上、約1万人もの利用者がいます。ほとんどの学校で、美術館スタッフが展示室を案内し、対話による美術鑑賞をとおり、主体的に学び、鑑賞への興味関心が高まるような学習を取り入れています。

鑑賞の学習といっても単に制作年や作者名・技法などを「知る」ことが目的ではありません。低学年においては「作品に対して自分なりの考えを持つ・発表する」、高学年では「他者と自分の考えを比較したり、作品を批評的に鑑賞する」など、まず自分自身の力で「感じる」ことを起点とし、発達段階に応じて、作品をとおしたコミュニケーションから、作品の意味を自分なりに見つけ出す学習を中心にすすめています。

その内容も、先生方との打ち合わせをとおして大きく変化します。特に低学年では、作品を見るだけでなく、作品制作や工作などで手を動かし、実感をともなった学習となるようにも心がけております。

何よりも、教科書の小さな図版から学ぶ教室での学習とは異なり、「本物から学ぶ」ことは美術館でしか行うことができません。教室で本物の作品を見せることと比べると、その質や量、場の持つ雰囲気などを総合して考えると、美術館で過ごす時間は大変貴重な体験といえるでしょう。



県立美術館と甲府市立新田小学校がともに行っている、特色ある取り組みがあります。これは同校の1年生から6年生までが毎学期ごと美術館に来館するという取り組みです。学期ごとに美術館で本物の作品を鑑賞し、卒業の前には展示室でギャラリートークを行います。同校の児童は作品鑑賞への興味・関心が非常に高く、学校・地域の文化レベルの向上を感じることができます。週末には美術館で友達と待ち合わせして、子どもだけで特別展を見に来てくれることもあります。

#### ●アートカードみるえ（平成28年度春 各校配布済み）

県立美術館の教育普及では、平成25年度にアートカードを作成し、平成28年度に県内小中高校へ配布いたしました。職員室の棚の上や図書室、備品庫などに眠っていませんか？

アートカードは、崇高なイメージのつきまとう美術鑑賞を、もっとカジュアルで平易に教室に持ちこむことができる教材です。これのよいところは、机の上にカードを広げて眺めて遊ぶだけで、美術作品に関する鑑賞や学習ができるというだけでなく、①カードをとおしたコミュニケーション活動ができる（学活的活用）②他者との感じ方の違いに気づくことができる（道徳的活用）③言語活用能力を高めることができる（国語的活用）ということです。

もし先生方の学校で、美術館に来館する計画があるようでしたら、事前学習でみるえを使って遊んで

みてください。来館当日の子どもたちの作品への食いつきが格段に変わるでしょう。帰ってからの事後学習に使っていただくこともできます。平成27年度には有志の先生方に、学年ごとのティーチャーズガイドを作成していただきました。みるえセットさえあれば、どなたでも予備知識なしにすぐに授業ができるようになっています。



### ●アートボックス（貸し出し教材）

アートボックスの中には、本物の作品や、制作の工程がわかるもの、資料などを揃えています。版画、油彩、日本画など13種類を用意しています。教室で、作家による本物の作品や道具に触れることができます。

### ●教師のための鑑賞研究会

特別展ごとに、「教師のための鑑賞研究会」を実施しています。開催中の特別展について、担当学芸員からギャラリートークを行い、先生方の研究に役立てていただいたり、アートカードの研修をおこなったりしています。

### ●出前授業

先生方と一緒に授業を計画したり、アイデアを提供したりする中で、創作活動や鑑賞の授業などを行います。

山梨県立美術館 教育普及イベント一覧

		イベント名	主な対象	内容
キッズ・プログラム	つくる	1 造形広場	幼・小	山梨学院短期大学、伊藤美輝先生による、リサイクルの材料によるワークショップです。
		2 創作教室	小・中	ものづくりや造形活動をとおして、芸術に親しみます。
	みる・かんじる	3 こども美術館	小・中・保護者	特別展の作品について、学芸員と一緒に鑑賞します。
		4 家族で美術館を楽しむ日	小・中・保護者	山梨県立美術館の誕生日に、展示作品を鑑賞したり体験したりして楽しめます。
		5 中高生のためのアートレクチャー	中・高	中高生を対象に、ギャラリートークやレクチャー、創作活動などをします。
大人のためのプログラム	つくる	6 美術体験・実技講座	中・高・おとな	作家を講師に招き、作品制作について専門的に教えていただきます。経験者コースと初心者コースがあります。
	みる・かんじる	7 大人のための美術講座	おとな	特別展に関して、学芸員や講師が講義をします。
		8 ギャラリートーク	おとな	学芸員が展示室で作品について解説をします。
すべての人のプログラム	みる・かんじる	9 講演会	おとな	特別展に関して、講師にお話をさせていただきます。
		10 映画会	すべて	特別展に関連した映画を上映します。
	つくってかざる	11 みんなでつくる美術館（みなび）	すべて	子ども、大人、障がい者の誰でも参加できるワークショップです。できあがった作品はみなび展に展示します。

### ■イベント

教育普及では、右のような様々なイベントも企画しています。

「中高生のためのアートレクチャー」は、主に部活動で来館する学生を対象とした、休日のスクールプログラムのようなものです。

県立美術館の教育普及では、このほかにもたくさんの取り組みをしています。学校現場に寄り添い、多様なニーズにお応えできるよう、教育主事をご相談に乗らせていただきます。ご質問・ご要望などございましたら、遠慮なく下記までご連絡ください。

**【お問い合わせ】**  
**山梨県立美術館 教育普及**  
 TEL 055-228-3258



# ICTを効果的に活用した主体的学習について

～主体的・対話的で深い学びに向けて～

総合教育センター 情報教育部

## 1 学習基盤となる情報活用能力の育成

小学校及び中学校の学習指導要領総則（平成29年3月告示）において、情報活用能力（情報モラルを含む）が、言語能力、問題発見・解決能力等とともに、学習の基盤となる重要な資質・能力の一つに位置付けられました。そして、この情報活用能力の育成を図るために、各学校においては、コンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることと、視聴覚教材や教育機器等の教材・教具の適切な活用を図ることが求められています。

## 2 ICT環境の整備促進

21世紀にふさわしい学校教育を実現できる環境の整備を図るため、第2期教育振興基本計画「教育のIT化に向けた環境整備4か年計画（平成26～29年度）」が施行されてきました。

現在、自治体によって進捗状況に違いはあるものの、各学校に大型提示装置や実物投影機、タブレット、無線LAN等が整備されつつあります。文部科学省は、平成30年度以降もICT環境の整備促進に向け、整備目標の再整理を行っておりますので、各学校における主体的・対話的で深い学びを推進していくICT環境が、今後より一層整備されていくものと思われます。

## 3 情報教育の推進に向けた研修

昨年、教員のキャリアステージに応じた資質・能力を高めるための指針となる「やまなし教員等育成指標～学びつづける教員のために～」が策定されました。

情報教育研修に関しては、キャリアステージに関係なく「ICT活用能力」と「情報モラル」に関する力量形成が求められています。平成30年度の情報教育研修に関しては、次の15講座を予定していますので、実際に体験しながら皆で学んでいきましょう。

NO	研修会名
1	主体的・対話的に学ぶプログラミング基礎研修会（小学校対象）
2	初心者のためのWindowsタブレット体験研修会
3	初心者のためのiPad体験研修会
4	授業に役立つiPad活用研修会（校種ごとに実施）
5	ICT機器活用研修会
6	プレゼンテーション（PowerPoint2016）研修会
7	ビデオ編集のためのiPad iMovie活用研修会
8	静止画・動画処理のためのソフト活用研修会
9	ホームページ作成基礎研修会
10	校務処理のためのExcel2016基礎研修会
11	校務処理のためのExcel2016活用研修会
12	マクロVBA（Excel2016）研修会
13	ネットワーク・サーバー基礎研修会
14	県立学校PCリーダーフォローアップ研修会（高校・特別支援学校対象）
15	情報セキュリティ・ネットトラブル対応研修会

また、本センターでの研修のみならず、校内研修や地区研究会での情報教育研修にも応じています。本年度は15の地区や学校から要請をいただき訪問させていただきました。

来年度も情報教育部の学校訪問をぜひ活用してください。よろしくお願いいたします。

## 「知と愛に満ちた健康でたくましい生徒の育成」を目指して ～「読書活動」を通じた取組～

→ 笛吹市立浅川中学校

本校では、上記の学校教育目標の具現化を目指し、生徒に生きる力を育む教育を根幹に据えて、生徒の実態把握を適切に行うとともに、それらを踏まえて個性や能力の伸長を図り、生き生きと活動する生徒の育成を進めています。そのために、体験活動を取り入れた授業や既習の学習や経験を生かした授業、キャリア教育、言語活動、理数教育、道徳教育等を推進し、健康・体力向上などを踏まえた適切な教育課程の編成と実施に努めているところです。

その中で、30年以上継続している取組が「朝の読書」を含めた読書活動です。「朝の読書」は、毎朝8時25分から10分間、自分の選んだ本を読みます。部活動の朝練習を終えた後の忙しい時間帯ではありますが、始まった瞬間には360名余りの全校生徒、全教室が静まりかえります。そして、読み終えた後の学活や授業に落ち着いた雰囲気の中で臨むことができます。

また、家族で同じ本を読み感想を書く“家読（うちどく）”や、自分の薦める本の紹介などの活動も行っています。そのような取組の中で、2014年には「朝の読書大賞」を受賞しました。さらに各種感想文コンクールにおいても好成績を残しているとともに、生徒たちにより「豊かな心」が身に付いていると感じています。今後も、「読書活動」の充実を図り、学校教育目標の具現化を進めていきたいと考えています。



## かがやく笑顔 ～子どもたち・保護者の方々・地域の方々・教職員みんなのかがやく笑顔を目指に！～

→ 県立やまびこ支援学校

本校は、知的障害者と肢体不自由者のための特別支援学校です。今年度は89名（小学部24名、中学部20名、高等部45名）が在籍しています。

小学部では、様々な活動や体験を通して、学ぶ楽しさを知り、自分から人やものにかかわろうとする気持ちを育てることを大切にしながら日々の学習に取り組んでいます。

中学部では、個々の力を伸ばすとともに、集団の中で、お互いの気持ちを思いやることを大切にしています。その一つとして、合唱に力を入れています。11月には、大月市小中学校音楽発表会にも参加してきました。

高等部では、先日、作業学習の活動として、学校の

隣にある『デイサービスセンターやまゆり』の花壇の整備を行いました。生徒の感想として、「やまゆりの方に喜んでもらえるように頑張った。」「ありがとうと言ってもらえて嬉しかった。」という声が聞かれました。多くの人に認めてもらえる経験が『働く』ことへの意欲につながっています。

本校が大月市富浜町宮谷地区に開校してから38年が経過しましたが、現在、移転改築の計画が進んでいます。移転場所は、同じ大月市の猿橋町桂台地区で、平成32年1月に移転する予定です。これまで大変お世話になった地域の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからもみんなが笑顔になれる学校を目標に、日々の教育活動に取り組んでいきます。



中学部  
大月市小中学校音楽発表会  
に参加



高等部  
デイサービスセンターの花壇の整備

## 山梨県立美術館開館40周年記念 愛されて40年 『100万回生きたねこ』 佐野洋子の世界」展

県立美術館

世代を超えて読み継がれ、昨年出版40周年を迎えた佐野洋子作『100万回生きたねこ』。本展ではその名作を中心に、代表的な絵本の原画、エッセイの原稿、女性や猫等を描いた銅版画作品を展示することで、絵本作家・エッセイスト・画家、佐野洋子（1938年～2010年）のユニークで豊かな世界を紹介します。

『100万回生きたねこ』は、ミュージカルとしても上演されました。本展では、舞台の関連美術も展示します。

佐野は、第二次世界大戦終戦後、中国から引き揚げて山梨在住の伯父のもとに一家で身を寄せ、子供時代の3年ほどを過ごしました。佐野の自然と生き物を見つめる暖かい眼差しは、多感な年頃の山梨暮らしによって形成されたものかもしれません。

佐野がより身近に感じられるように、本展では彼女の幼い頃からの写真や、作画道具、愛用品なども展示します。また、会場には『100万回生きたねこ』の主人公「とらねこ」と一緒に写真が撮れたり、絵本を読んだりできるコーナーもあり、誰もが楽しいひと時を過ごせる展覧会となっています。

本展は5章構成で出品作品点数は約100点です。第1章の『100万回生きたねこ』の世界」では、絵本に基づいたミュージカルの舞台関連美術と『100万回生きたねこ』の絵本原画を展示します。出版40周年と当館開館40周年を記念して、本展では『100万回生きたねこ』原画全18点を展示いたします。原画保存のために近年展示が制限されてきた『100万回生きたねこ』ですが、会期中展示替え（前期9点、後期9点）を行うことで、展示が特別に許可されました。あわせて描かれた当時の鮮やかさを再現したデジタルリマスター版も展示します。第2章では、ユニークな猫たちが登場する絵本の原画を展示します。初公開の絵本原画も含まれます。第3章では、大人になっても失われなかった子供の視点で創作された、誰もが懐かしいと感じる絵本の原画を展示します。また、初公開となる佐野の山梨時代の思い出を綴った小説の原稿も展示します。第4章では、身近な自然に注ぎ続けた暖かい眼差しが感じられる絵本の原画を展示します。第5章では佐野のアーティストとしての側面、そして一女性としての生き様を銅版画作品でたどります。



作・絵：佐野洋子（講談社 刊）  
©JIROCHO,Inc./KODANSHA

### 山梨県立美術館開館40周年記念 愛されて40年 『100万回生きたねこ』 佐野洋子の世界」展

会 期：2018（平成30）年4月21日（土）～6月17日（日）

開催場所：山梨県立美術館特別展示室

入場料等：一般1,000円・高校生以下の児童・生徒は無料

休 館 日：4月23日（月）・5月7日（月）・14日（月）・21日（月）・  
28日（月）・6月4日（月）・11日（月）

問い合わせ先：山梨県立美術館 TEL 055-228-3322

関連HP <http://www.art-museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 特設展 生誕120年 井伏鱒二展

旅好き 釣り好き 温泉好き

県立文学館

### 1 井伏鱒二と山梨



1966年5月 取材のため  
下部温泉を訪れた井伏鱒二

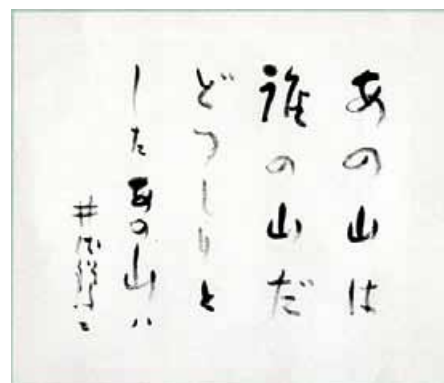
昭和期の日本文学を代表する作家であり、「山椒魚<sup>さんしょうお</sup>」「ジョン万次郎漂流記」「黒い雨」などの名作を残した井伏鱒二<sup>いぶせますじ</sup>（1898～1993 広島県生まれ）。生誕120年を記念して、下部温泉、増富ラジウム温泉、疎開した甲府など井伏が山梨各地に残した足跡や、俳人の飯田蛇笏・龍太親子との交流を紹介します。

井伏は、東京の井荻村<sup>いおき</sup>（現・杉並区清水）に居を構えた1927（昭和2）年以後、小説の取材や趣味の川釣りのためしばしば山梨を訪れました。1938（昭和13）年、太宰治を御坂峠の天下茶屋に誘い、結婚に至るまでの世話をし、1944年に甲府に疎開した折にも太宰と交流を持ちました。また、境川村（現・笛吹市境川町）の飯田蛇笏・龍太親子とも長きにわたり親交をあたため、龍太とは40年近くにわたり書簡を交わしています。さらに「侘助<sup>わびすけ</sup>」「七つの街道<sup>ななつごう</sup>」「小黒坂の猪<sup>いのしし</sup>」「岳麓点描<sup>がくろくてんびょう</sup>」など、山梨を舞台にした作品を数多く執筆しました。

### 2 展示の見どころ

井伏鱒二「あの山は誰の山だ どつしりとしたあの山は」軸装（写真）は、井伏が境川村の飯田龍太宅を訪問した際に書かれました。この詩は、井伏の随筆「支離滅裂」（「新潮」1950年7月号掲載）の中に、戦中、長野の岡谷で行った講演会で聴衆に笑われてやりきれない思いをした後、廊下の窓から大きな山を見て「あの山を見ろ／あれは誰の山だ／あのどつしりとした／でつかい山を見ろ」とノートに書き留めた詩として登場します。その後、『厄除け詩集<sup>やくよけ</sup>』に「あの山」の題で「あれは誰の山だ／どつしりとした／あの山は」の形で収録されました。

このほか、東京から甲府へ学童疎開してきた少年二人とともに主人公の「私」が歴史の世界に時間旅行をする小説「二つの話」の原稿や、飯田龍太との往復書簡、太宰治や深沢七郎が井伏に宛てた書簡など、当館収蔵の原稿、書簡、書画などを中心に、井伏と山梨のゆかりを数々の資料により展示します。



井伏鱒二「あの山は誰の山だ どつしりとしたあの山は」軸装 当館寄託

#### 特設展「生誕120年 井伏鱒二展 旅好き 釣り好き 温泉好き」

日時：平成30年4月28日（土）～6月17日（日）

場所：山梨県立文学館 展示室C

観覧料：常設展観覧料 一般320円（250円） 大学生210円（170円）

\*高校生以下の児童・生徒、65歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料

問い合わせ先：TEL 055-235-8080

関連HP <http://www.bungakukan.pref.yamanashi.jp/>

Click!

## 企画展「芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」

県立博物館

月岡芳年（つきおかよしとし）は江戸から明治にかけて活躍した浮世絵師です。幕末の混乱と明治維新を経て日本が急激に変遷する、まさに激動の時代に人気絵師となった芳年は、浮世絵の需要が失われつつあった当時において最も大成した絵師でした。

本展では、世界屈指の芳年コレクションで知られる西井正氣氏所蔵のコレクションより、初期から晩年にかけての代表作を展示し、芳年の生涯とともにご紹介いたします。また、日本画家でもある西井氏が描いた、芳年の甲府道祖神祭幕絵を模写した屏風や、山梨で発見された芳年作の肖像画など、山梨と芳年との関わりにも迫ります。

**【関連イベント】** ※その他イベントについては当館HPにて随時情報をお知らせします。

### ◆かいじあむ子ども工房

「浮世絵を摺ってみよう」 4月14日（土）

「君も芳年に弟子入り?! 着物の柄をデザインしてみよう」

5月12日（土）

いずれも10:30~15:00（30分程度）ロビー

※申込不要、参加無料

### ◆あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば

「芳年めんこを作ろう」 3月18日（日）

「“歌舞伎”のプラバンを作ろう」 3月25日（日）

いずれも 11:00~（30分程度）常設展示室

※申込不要、常設展観覧券が必要

### ◆学芸員による見どころ解説

「ギャラリー・トーク」 3月25日（日）、4月30日（月・祝）

「ちょっとマニアックなギャラリー・トーク」 4月14日（土）、5月13日（日）

いずれも15:00~（1時間程度）企画展示室

※申込不要、本展観覧券が必要

### ◆「なぜなに?! うきよえ教室」

5月4日（金・祝）、5月5日（土）

芳年の浮世絵を見ながら、子ども向けに浮世絵のお話をします。

いずれも15:00~（30分程度）企画展示室

※申込不要、本展観覧券が必要



「東名所墨田川梅若之古事」  
明治16年(1883) (個人蔵)



「月百姿 吉野山 夜半月 伊賀局」  
明治19年(1886) (個人蔵)

## 企画展「芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」

会 期：平成30年3月17日（土）～5月14日（月）※火曜日休館 ※5月1日（火）は開館

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30）

観 覧 料：一般500（400）円 大学生250（200）円

常設展+企画展共通券 一般820円 大学生370円

小・中・高・特別支援学校等の児童・生徒は無料

問い合わせ先：県立博物館 TEL 055-261-2631

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp/>

Click!



## 開館35周年記念特別展「古代アンデス文明展」開催のお知らせ

県立考古博物館

### 1 南米の至宝が集結！



南米大陸の太平洋岸では、南北4,000km、標高差4,500mにもおよぶ壮大なスケールの大地を舞台に、ナスカ・モチェ・ティワナク・インカなど、先史時代からスペイン人によるインカ帝国征服までの約15,000年もの間、多種多様な文化の盛衰が繰り返されました。その巨大で複雑な文明の全容はいまだ謎に包まれています。その分、地球の裏側に住む私たちの心をも捕らえて放さない魅力に満ちています。

本展は、1995年の「黄金の都シカン発掘展」からはじまり、ナスカ、インカへと20年以上もの歳月をかけて開催してきた「TBSアンデス・プロジェクト」の集大成ともいえる展覧会です。いくつもの文化が連なり、相互に影響し合う中で生まれた独自の宗教儀礼や芸術、生活様式を、厳選した貴重な品々とともに紹介します。

チリバヤ文化のミイラ（インカ以前）900年～1440年頃

### 2 関連イベント

#### ●特別展記念講演会

6月10日（日）13:30～15:00

「アンデスのミイラーその誕生から消滅まで」

篠田 謙一 氏

（国立科学博物館 副館長 兼 人類研究部長）

「インカ帝国はなぜ滅びたか」

網野 徹哉 氏

（東京大学大学院総合文化研究科 教授）

◆参加費 無料（ただし事前申し込みが必要です）

◆会場 山梨県立考古博物館 風土記の丘研修センター講堂



黄金製の神像（モチェ文化）

200年～800年頃

#### ●ものづくり教室 会場：風土記の丘研修センター（それぞれ1ヶ月前から予約できます）

◆原始古代の技に学ぶ（16歳以上対象） 6月10日（日）「アンデスのコチニール染め体験」

◆原始古代の技に学ぶ（16歳以上対象） 7月1日（日）・7日（土）「アンデスの絵皿を作ろう」

◆チャレンジ博物館（小中学生親子対象） 6月17日（日）「アンデスの染めものにチャレンジ」

◆チャレンジ博物館（小中学生親子対象） 7月8日（日）・15日（日）「アンデスの絵皿づくり」

### 開館35周年記念特別展「古代アンデス文明展」

日 時：平成30年5月19日（土）～7月16日（月・祝）9:00～17:00（入館は16:30まで）

休 館 日：毎週月曜日（7月16日は開館）

入 館 料：大学生・一般 1080円（常設展とのセット料金有）、団体（20名以上）860円

小中高校生・県内在住の65歳以上無料（要証明書）※常設展は別途観覧料が必要

問い合わせ先：県立考古博物館 TEL 055-266-3881 FAX:055-266-3882

関連 HP <http://www.pref.yamanashi.jp/kouko-hak/>

Click!

## 山梨近代人物館

学術文化財課

### 山梨に「明治」を連れてきた藤村紫朗（第7回展示「明治を彩った山梨の人々」）

今年で明治維新から150周年を迎えます。不平等条約の中で海外に対抗できる産業もなく、学校も議会もまだなかった当時、人々はどのように数々の課題を乗り越えて、「明治」という時代を築いていったのでしょうか。

山梨に「文明開化」や「殖産興業」といった新しい時代「明治」を連れて来たといえるのが、第5代県令藤村紫朗です。藤村の治世は、明治6年（1873）1月の着任から20年（1887）3月に愛媛県知事に転任するまで、戦前の官選知事では最長となる約14年1ヶ月にも及びました。

藤村が山梨にやって来た時、彼はまだ満27歳の青年でした（藤村は弘化2年（1845）3月1日生まれ）。藤村が山梨に着任する前年の明治5年（1872）に発生した大小切騒動では、旧来の税制度の維持を要求した民衆側が敗北し、山梨の人々にとっての「明治」は、早くも暗く閉塞したものとなっていたと思われ

ます。そこに颯爽と現れた青年県令藤村がもたらした新しい政策の数々は、大小切騒動の敗北に沈む多くの山梨の人々に、新しい時代の希望として受け入れられたのではないかと思います。

まず藤村が発表したのが「物産富殖の告諭」です。藤村はこの告諭で「<sup>さんらんさんし</sup>蚕卵蚕糸ハ御国第一ノ名産ニシテ海外諸国ニ於テモ之ヲ愛重シ其利益不少、<sup>すくなからず</sup>実ニ家ヲ興シ国ヲ富スノ良産ト云フヘシ」として、山梨の名産である養蚕業を振興することで、みんなそれぞれの家も、ひいては国も栄えていくのだとしました。藤村はこうした掛け声とともに、甲府錦町に勸業製糸場（明治7年）、旧甲府城内に勸業試験場（明治9年）を建設して、新しい時代の産業の見本を示していきました。こうした産業振興政策のほか、学校建設を奨励したことで県内各地に「藤村式」とも称された擬洋風建築の小学校が建ち並ぶようになり、また明治7年（1874）1月には「道路開通告示」を発して、山梨は物産が多いものの、輸送する道路が不足しているために停滞を起こしているとして、各地での道路や橋梁の整備を奨励していきました。



旧甲府城内に開かれた勸業試験場



「府県長官銘々伝」に描かれた藤村紫朗

こうした藤村の諸政策は、中央の大久保利通内務卿の政策に沿ったものではありませんでしたが、藤村は山梨の特徴や事情を良く把握し、その後の山梨県の産業や教育の発展の基礎を築いたものとも言えます。4月1日(日)より、山梨近代人物館では、第7回「明治を彩った山梨の人々」と題して、今回紹介した藤村紫朗をはじめ、わが国の発展に貢献した山梨ゆかりの人物たちを紹介いたします。明治150年を迎える本年、ぜひ近代人物館でわが国発展の基を開いた人物たちの足跡を追ってみてください。

## 山梨の文化財

学術文化財課

## 県指定史跡 甲府城愛宕山石切場跡（甲府市愛宕町）

石切場とは、建物の基礎や石垣、水路などに使用する石材を採取する場所のことです。岩盤から石材を割り採ることを「石を切り出す」というように、石材を割り採る場所のことを「石切場」と呼んでいるのです。

県指定史跡甲府城愛宕山石切場跡は、甲府城の北東にある愛宕山の麓にあります。愛宕山や甲府城が築城された独立丘陵（一条小山）は、安山岩という岩石で構成されており、現在でも地表に露出した安山岩の岩盤を見ることができます（写真1）。今から450年ほど前に築造された甲府城の石垣にも、これらの石材が利用されたと考えられています。



写真1 甲府城愛宕山石切場跡の様子

石切場に露出している岩盤には、表面に縦長の穴が連続して開いているものがあります（写真2）。この穴こそ、この場所で石材を切り出していたことを示す証拠です。この穴は、鑿（のみ）とハンマーによってコツコツと掘られたもので、ここに鉄の楔（くさび）を打ち込むことで巨石を割ることができるのです。石に打ち込む楔のことを「矢（や）」とよぶことから、この穴は「矢穴（やあな）」と呼ばれています。例えば甲府城の石垣に用いられた石材も同じ方法で割られており、石の表面に矢穴を見ることができます（写真3）。

甲府城の石垣に見られる矢穴には、いずれも幅が約12cmであるという特徴があります。12cmは約4寸であることから「四寸矢穴」と呼ばれています。甲府城愛宕山石切場跡では、今のところ四寸矢穴は発見されていません。多くは幅6cm程度の大きさの矢穴で、甲府城の石垣が造られた450年前よりも新しい時期のものと考えられています。甲府城の石垣築造の際には、当該地点を含む周辺地域で大量の石材が採取されたことでしょう。この石切場に残された幅約6cmの矢穴は、江戸時代になってからも、甲府城下町で用いられる建築部材などの

ために、愛宕山周辺で石材が採取され続けたことを物語っています。山梨の石積み技術の歴史を知る貴重な遺跡なのです。

これらの価値が評価され、平成20年11月に、山梨県の史跡に指定されました。



写真2 石を割るための「矢穴」



写真3 石垣の表面にみられる矢穴

## 「かいじあむのこどもまつり」のお知らせ

県立博物館

山梨県立博物館では、毎年5月の大型連休の時期に、「かいじあむのこどもまつり」と題して、多くのみなさまにご来館いただき、様々な体験で楽しいひとときを過ごしていただいています。

■開催日時 **平成30年5月4日（金・祝）～5日（土・祝）**

午前10時～午後3時

■会 場 山梨県立博物館 館内各所

■開催イベント

・十二単の試着体験



～十二単の試着体験～

・鎧の試着体験

・弓矢に挑戦！

・スペシャル寺子屋ひろば

※芳年作品をもとに、のぼり旗とつまみ細工を作ります。



～弓矢に挑戦！～

などを予定しております。

※イベントの日程・内容は変更する場合があります。詳しくは博物館HPにてご確認ください。

※当日は、企画展「芳年 激動の時代を生きた鬼才浮世絵師」（5月14日まで）を開催しております。併せてご覧ください。

### 【問い合わせ先】

県立博物館 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

TEL:055-261-2631(代表) FAX:055-261-2632

関連HP <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>

Click!

Click!

## 甲府市立中道北小学校

<http://www.nakamichikita-e.kofu-ymn.ed.jp/>



**多くの星がたくたく成長した2学期**

夏の名残のある季節に始まり、秋を経て、季節は厳しい寒さの冬に移り変わってきました。始まって間もなく長いと感じていた2学期ですが、こうして残り数日というところまで来て振り返ると、短かったと感じるのはなぜでしょう。 来週26日には終業式を迎え、冬休みに入ります。

授業日数は81日、この間に、たくさんの学校行事、学年行事、対外行事がありました。また、多くの学習内容もありました。子ども達はそれらに一生懸命に取り組み、一つ一つの行事によって経験を積み、やり遂げるたびに多くの事を学び取ってきました。そんな中で失敗してしまっただけでもありません。友だち同士のいざいめで時には手が出てしまうようなことも目に入ってきました…このような過ちさえ乗り越える経験が子ども達の「生きる力」となって、必ず今後生きていくと信じています。

一人一人の2学期の様子は個別懇談や通信票等で各担任からお知らせしました。ご家庭におきましては、子どもたちの成長の姿を一つでも多く認めていただき、また新しい年、3学期からの活力となりますよう、励ましの声かけをしてあげてください。冬休みには年末年始の伝統的な行事にも親しまれつつ、新しい年の目標や決意などについてお子様と話し合ってみてください。

**「特別の教科道徳」について**

来年度から、文科省の方針により今まで教科外だった道徳が「特別の教科道徳」として教科になります。この教科化により、来年度になると子ども達には、個人持ちの教科書が支給され、授業の中では、考え、議論しながら、道徳的な価値を身に付けさせることを目指します。

今年度本校では、来年度からの教科化に向けて、校内研究で道徳の授業研究に取り組んでおります。2学期には全ての学級で研究授業を行い、特に3・5年生の授業では、外部の指導者を招いて、研究を深めました。

本校では、各月1回「北小だより」を全家庭向けに発行しています。画像等で学校生活の様子ができるだけ詳しく保護者に伝わるよう、親しみやすい内容を心がけています。QRコードを載せ、スマホで手軽にカラー版が見られるようにし、自治会の組回覧でも公開しています。

**学校開放日**

11月11日(土)に学校開放日を開催しました。おうちの方々、学校評議員様をはじめ地域の皆様にも多数ご参加いただき、ありがとうございました。子どもたちもおうちの人に見に来てもらい、明るく元気な様子で活動していました。この日に合わせて、親子活動などを計画した学年もあり、親子のふれあいのほほえましい光景をたくさん目にすることができました。またふれあい祭りでも流れたバザーを急遽実施しましたが、もちろへのご協力もありがとうございました。

Click!

## 南部町立南部中学校

<http://www.nanbu-chu.ed.jp/>

南部町立南部中学校 実践理念：まぶき・考え・行動 そして感動の教育

### やる気と感動

学校だより 6号  
平成29年  
5月18日(木)

#### ＝ H29年度 第1回 学校運営協議会 開催 ＝

昨年度、本校に学校運営協議会が設置されました。この協議会の目的は、『学校運営に関して、保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより、学校と保護者、地域住民等と信頼関係を深め、一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組むものとする。』と学校運営協議会規則で定められています。昨年度は4回実施され、山本純司会長（前校長）をはじめとする15名の委員さんと、教育長と教育委員会事務局、城南教育事務所指導主事、校長・教頭・教務主任で、毎回2時間以上の熱心な話し合いをして頂きました。委員の皆さんは、『南部中学校の生徒の健やかな成長のため』という願いや考え方で質問やご意見を投げかけてくださるので、毎回感謝の気持ちで一杯になります。

今年度の第1回目を17日(水)に実施しました。今回も2時間にわたり多くの委員の皆さんから質問やご意見をいただき、本年度の「学校経営基本方針」が承認されました。出されました貴重なご意見をこれからの学校経営に活かしていきたいと思っております。

学校運営協議会と向輪となり、学校を支えて頂ける組織の学校支援地域本部が、今年度から教育委員会の教育支援センターに設置されました。学校と地域をつなぐ役割をもち、地域の人材を紹介したり、学校の地域貢献活動をサポートしたりと、コミュニティ・スクールにとっては大切な機能を持っています。その中心となる地域コーディネーターは、前陸合小学校長 田村勝彦先生です。教育支援センターの業務も担当され、学校運営協議会の委員でもありとても頼りになる存在です。（よろしくお願ひします。）

#### 内船歌舞伎公演 南部中一年生 伝統文化をつなぐ

12月3日(日曜日)午前中は資源回収が行われ、大勢の生徒・保護者、そして地域の皆さんのご協力をいただきました。ありがとうございました。ここ数年は連続して収益が減少していましたが、今年度はなんと50%も増加しました。生徒や保護者の皆さんの働きかけや積極的な回収、そしてなにより、地域の皆さんの温かいご協力のおかげだと感謝しております。今後、体育文化後援会補助金、舞城祭生徒会補助金など、公費ではまかなえない部分に充てさせていただきます。本当にありがとうございました。

その日の午後には、内船歌舞伎公演が開催され、本校の一年生が舞城祭に続き「吉例曾我一対面の一」を披露させていただきました。当日は駐車場も一杯となり、客席も満席で立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。今回は舞城祭では出演者しなかった生徒が出演し、練習は学校が終わってから文化ホールへ移動して行うなど、大変な面も多かったと思いますが、無事公演を終えることができました。たまたま今回は内船出身の生徒は出演しておらず、南部町各地域の生徒の出演となりました。各地域の中学生の出演が、内船歌舞伎の南部町全体へ広がり、少しでも貢献できたのではないかと思います。

今回も熱心にご指導いただいた、内船歌舞伎保存会の皆様には心より感謝申し上げます。

南部中学校は、学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校づくりに取り組んでいます。地域との絆を大切にし、学校の様子などを昨年度から学校だよりで町全戸へ回覧しています。また、伝統文化の伝承のため内船歌舞伎保存会の皆さんの協力のもと、学園祭で内船歌舞伎を披露しています。



## 「第4回贈りたい本大賞」が決まりました

県立図書館

県立図書館は、やまなし読書活動促進事業の一環として、「贈りたい本大賞—大切な人に贈りたい1冊—」の募集を行い、このたび「第4回贈りたい本大賞」を決定しました。

「贈りたい本大賞」は、大切な人に贈りたい本1冊を、150字以内の推薦文とともにご応募いただくもので、山梨県内外から3,017点の応募がありました。

表彰式は、平成29年11月12日（日）県立図書館多目的ホールにて行われました。

受賞者は次のとおりです。



贈りたい本大賞表彰式の様子

### ● 大賞

- ・鈴木莉々佳さん（長坂小学校）「お母さんへ」  
『うまれてきてくれてありがとう』 にしもとよう／ぶん 黒井健／え 童心社
- ・伊藤音和さん（竜王北中学校）「母へ」  
『天国までの百マイル』 浅田次郎／著 朝日新聞社
- ・末木七海さん（甲府昭和高等学校）「友達へ」  
『きみの友だち』 重松清／著 新潮社
- ・木下久美子さん（甲府市）「長男へ」  
『こども孫子の兵法』 齋藤孝／監修 日本図書センター
- ・土屋達江さん（南アルプス市）「姉様へ」  
『美智子さま御歌 千年の後』 秦澄美枝／著 PHP研究所

◆大賞の推薦文をまとめたリーフレットは、県立図書館ホームページからご覧いただけます。

<https://www.lib.pref.yamanashi.jp/sokushin/h29.html>

Click!

### ● 優秀賞

- ・相田春美さん（甲府市）「大好きな孫 廉へ」  
『ずーっとずっとだいすきだよ』 ハンス・ウィルヘルム／えとぶん 久山太市／やく 評論社  
ほか23名

### ○ 学校賞

阿刀田高賞 山梨県立韮崎工業高等学校 甲斐市立竜王北中学校  
特別賞 自然学園高等学校 上野原市立西原小学校

山梨県立市川高等学校 山梨県立甲府昭和高等学校  
山梨県立甲府南高等学校 山梨県立白根高等学校 山梨県立北杜高等学校  
中央市立田富中学校 甲斐市立玉幡中学校